天然砥石

日本伝統 大工道具の匠

産地・京都府亀岡市 丸尾山を探訪

鉋(カンナ)や鑿(ノミ)など、鍛冶の匠が打った大工道具は、量産品とは一線を画すシャープな切れ味と長切れを実現する。とは言え、その切れ味を最大限まで引き出し、維持していくのは使い手の手入れ次第だ。志の高い大工は皆「良い砥石と、研ぎの技術が伴わないと意味がない」と口を揃える。どんなに良い刃物を持っていても、肝心の刃が鈍っていては宝の持ち腐れなのである。

よって、砥石も重要な大工道具のひとつ。現在では人造砥石も台頭してきているが、木を削った時の肌艶感の良さを実現できる『天然砥石』」の存在は別格。そんな大工道具の守護神「天然砥石」の採掘に人生を捧げる『砥取家(ととりや)』を探訪。天然砥石に込める想いや、その魅力を説いていこう。

Photo&Text : Takahiro Shiki

世界に誇る日本の宝 京都産・天然砥石の魅力

現在、本格的な坑内掘りをオフィシャルで運営しているのは、おそらく「砥取家」だけとのこと。「丸尾山」という山名こそついているが、一般的には人知れぬ山奥にある。その坑道は狭く薄暗い

坑内の核心部に到着すると、そこは頭上も足下も360度パノラマで、カラフルな砥石に囲まれる世界が広がる。天然砥石に長けているなら、この写真を見ただけでも垂涎モノのはずだ

土橋氏が指差している茶褐色部が「巣板(すいた)層」の「巣」の部分。この周囲も良質な砥石として成り立つ部位だ。この層から切り出され、仕上げられたものが「巣板」と呼ばれる砥石になる

斜陽となっている「砥石」の文化

昭和中期頃までは、一般家庭で「包丁を砥ぐ」ことは日常の風景であって、各家庭に1本や2本は天然砥石があったものだ。

大工の世界においても、道具の手入れは日課であった。

しかし昨今、ハウスメーカーの隆盛によってプレカットされた材木(予め設計図通りに切削された部材が建築現場に納入される)を組み立てることで家が建ってしまう、といった市場が大きくなったのはご存知の通り。すると、ハウスメーカー物件だけを扱う大工は、出番の少ない鉋は砥ぎの必要がない簡易的な「替え刃式」で済ませてしまうといった流れに…。

そんな背景もあって「砥石」という文化は徐々に衰退。また「人造砥石」が台頭してきたこともあり「天然砥石」のマーケットはさらに縮小。天然砥石を採掘していた業者は次々と姿を消していった。

そんな現在。「坑内掘り」による天然砥石の採掘業者は、おそらく日本で唯一、京都府亀岡市にある『砥取家』だけとなってしまった。

～ 産地・京都府亀岡市 丸尾山を探訪 ～

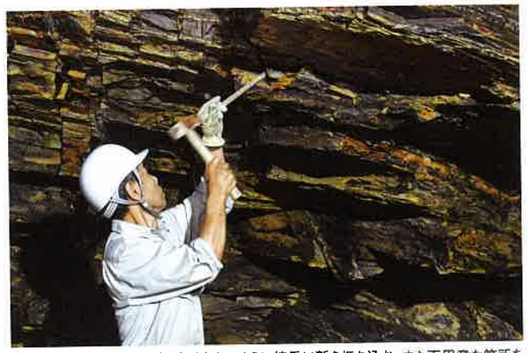
地球の奇跡によってできた天然砥石の鉱脈を発見するも…

世界屈指の「良質な砥石の産地」と言われる京都エリアの天然砥石。その砥石の鉱脈は、今から約2億5000万年前の海洋プレートが、本州へと吸収される際、京都府付近に隆起して地表へと運ばれてきたものだ。地球の地殻変動によって授かった、云わば奇跡の産物である。

その鉱脈の本層は高雄から亀岡間の約30㎞に及ぶが、幅は30～50m、厚みも僅か15m程度というもの。億年単位という途方もない時間をかけ、少しずつ動いてきた地盤には当然ながら断層があり、場所によっては断裂している箇所も多い。つまりは鉱脈を見つけるのは〝至難の業〟という他ならず、その昔は砥石の採掘屋を始めようとする者は「博打打ち」と揶揄されていたそうだ。

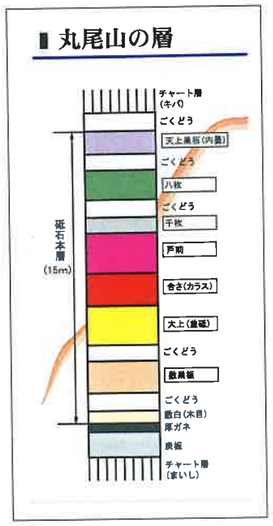
そんな貴重な鉱脈を掘り当てた採掘業者も、前出の理由で次々と閉山。その跡地は区画整理や、造成されて宅地になるなど様々な理由によって、今後採掘することは不可能となってしまった。

よって、過去に閉山されてしまった山・銘柄の天然砥石は、数十年前に採掘された物を残すのみ。砥石屋や金物屋の蔵などに保管されている秘蔵品か、廃業した大工や理容店などから出てくる砥石だけとなっている。



各種砥石の層を見極め、無駄が出ないように慎重に鏨を打ち込む。また不用意な箇所を崩せば、落盤の危険性もある命懸けの仕事だ

▮ 丸尾山の層



丸尾山において砥石の層は大きく分けると7種となるが、細かく分類すると30種にも及ぶという

『丸尾山蔵砥』の風格

青巣板　ナマズ

白巣板　蓮華

合さ

天上戸前　うぐいす

誉れ高き逸品

ここに紹介する4本の砥石は、全て丸尾山から産出された極上の仕上げ砥石だ。その粒度は人造砥石の#7000～#9000程度と言われているが、砥ぎ込むほどに粒子が細かくなっていくために#20000レベルと同等かそれ以上の仕上がりになる。しかも、ただの#20000というだけでなく、刃返りも皆無となるので完璧な刃を付ければ1／1000㎜(1ミクロン)というレベルで、鉋の薄削りを実現することも可能だ。

天然砥石の価値・存続に人生を賭ける

砥石は使えば減る物なので、過去に採掘された良質な天然砥石の現存数は次第に減少。反比例するように希少価値も高くなり、取引価格も高騰の一途だ。

このままでは近い将来、良質な天然砥石が枯渇してしまう。こと、最高峰の仕上げ砥石と言われる京都産においては、絶滅が危惧されるほどである。

そんな京都の天然砥石文化を守り続けているのが、創業明治10年、140年以上にも渡って天然砥石を採掘し続けている『砥取家』だ。現在四代目となる代表の土橋要造氏を筆頭に、五代目候補である息子の淳志氏、秀明氏を控えた盤石の布陣で日々採掘に励んでいる。

「鉋や鑿、そして庖丁など、天然砥石で仕上げた刃物の切れ味は人造砥石とは別物になります。天然砥石は鋼材の軟らかい部分から優先的に砥ぎ下ろしていきます。結果として鋼の硬い部分が刃先に揃うので鋭く切れるだけでなく、刃持ちが良いので長切れするようになるのです」と、土橋氏。

それだけではない。日本が世界に誇る〝日本刀〟の分野では、その美しい刃紋を浮き立たせるために〝内曇効果〟を出せる「天上巣板（てんじょうすいた）」という天然砥石が必須となる。どんなに人造砥石の性能が上がっても、これがないと綺麗に刀紋を出すことは困難なのだ。

「良質な天然砥石だからこそ実現できる砥ぎ・研磨の文化を絶やしてはならない」そんな強い想いから、代々に渡り天然砥石の採掘に人生を賭けている。

坑内で採掘した原石は作業場で適宜大きさに切断される。砥取家が採掘する天然砥石は"荒砥""中砥""仕上げ砥"で言うところの「仕上げ砥」だけとなる。貴重な原石から無駄が出ないように石目を読み、上等な砥石を切り出す

切り出された砥石は、面付け器（回転研磨盤）に乗せられ仕上げの工程に入る。砥面を平らに研磨した後、印が押され商品となっていく

実際に試し砥ぎをすることが可能で、気に入った砥石が見つかればその場で購入できるのが魅力。取材当日も千葉県から来た大工さんが熱心に砥石を探されていた

京都産天然砥石の代表的な紋様を見る

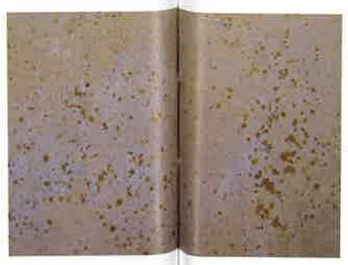
砥石には採掘された山や層、紋様や色などに応じて名称や呼称がついている。ちなみに同じ山の同一層が切り出されたものであっても、性能が全く同じという砥石は二つとない。何億年もの歳月をかけ、地球が造り出した奇跡の彩色にも目を奪われる。

一本松 羽二重（はぶたえ）

一本松 天上戸前 いきむらさき（てんじょうとまえ）

丸尾山 白巣板（しろすいた）

一本松 戸前 色物（とまえ いろもの）

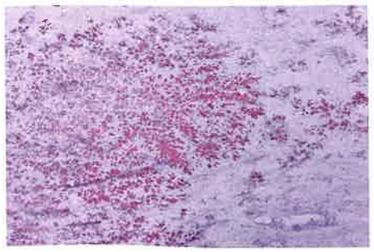


御廟山（ごびょうやま） 天上戸前 梨地（てんじょうとまえ なしじ）

丸尾山 卵色巣板巣なし 紅葉（たまごいろすいたすなし もみじ）

大谷山 戸前 浅黄（とまえ あさぎ）

丸尾山 青巣板（あおすいた）



芦屋 蓮華（れんげ）

丸尾山 カラス

天然砥石館

日本の砥石文化を世界に発信

～ 産地・京都府亀岡市 丸尾山を探訪 ～

天然砥石で砥ぎを体験することも可能。世界で唯一の天然砥石の体験型ミュージアムなのである

京都府亀岡市宮前町神前長野15
☎050-3700-1014
http://toishi-kan.info
開館時間：AM10:00～PM4:00
定休日：月・火・水曜日

刃物を扱う本職なら一度は足を運びたい

「天然砥石館」は2017年に伝統建築や日本刀、和食などの文化を支えてきた「天然砥石と研ぎの文化」を伝えていく拠点として開館された。

地元で産出された天然砥石だけでなく、日本全国、そして世界各国で産出された貴重な砥石が展示されている。刃物を扱う者ならその造詣を深めるためにも、是非足を運んでその歴史や各砥石の特徴など、多くを学べる時間と触れ合ってほしい。

また職人だけでなく、家族連れの子供でも包丁研ぎや鰹節削りなど「研ぎ」の文化を体験できる施設にもなっているので京都観光の際に立ち寄ってみるのも良いだろう。

京都産はもちろん、国内各産地の砥石や世界各国の砥石が一堂に会する。採掘地や地層などの資料も充実。また、一部の砥石は販売もされているので、その場で購入することも可能だ

砥取家（ととりや）

京都府亀岡市東本梅町大内上条20　☎0771-26-2545　https://toishi.jp

京都府亀岡市にある、丹波系本口成り"丸尾山"で天然砥石を採掘し販売。『丸尾山蔵砥』というブランド砥石は、世界的に見ても最上級となる天然砥石を豊富にラインナップ。その他、すでに閉山してしまった各山の良質な天然砥石も数多くストックしている。

「刃物に使われている鋼材や砥ぎ手の好みなど、様々なご要望に合った天然砥石が揃っておりますので、何なりとご相談頂ければと思います。また、ご自身の鉋や鑿、庖丁などをお持ちになって頂ければ、各天然砥石の試し砥ぎも出来ますのでお気軽にご予約下さい。」

右より 土橋要造さん・秀明さん

砥取家の展示場には数多くの天然砥石を在庫。使い手の好みや砥ぎの技量、そしてどんな刃物を研ぐのかによって、それらにマッチした砥石をいくつも提案してくれる